

アマヤドリ 広報ポリシー（2025.04.22 修正版）

はじめに

アマヤドリは、18～29 歳の若者たちが、自分らしく安心して暮らせる社会を目指して活動しています。

住まい・つながり・学び・相談の場をつくりながら、一人ひとりの「これから」をともに考え、支え合っています。

情報発信もまた、私たちの大切な活動のひとつです。

その際に用いる言葉や表現が誰かを勇気づけたり、偏見をなくすきっかけになったりする一方で、意図せず誰かを傷つけてしまうこともあるからこそ、日々の発信に心を込めて取り組んでいます。

この広報ポリシーは、私たちが大切にしている姿勢や想いを共有し、発信に関わる責任と誠実さを社会とともに担っていくための約束です。

尊厳と権利をまんやかに

どんな人にも、自分らしく生きる権利があります。

誰かを「未熟」と決めつけたり、「無知な存在」として扱ったりせず、ひとりの人として、年齢や経験に関わらず敬意をもって向き合います。

「弱さ」ではなく「力」に目を向ける

アマヤドリは、困難な環境を生き抜いてきた若者が自分の人生を切り開いていく姿に出会ってきました。若者たちを「支えが必要な弱者」ではなく、「自らの人生を切り開いていく力を持っている存在」として見つめます。

私たちの役割は、その力が発揮できるような環境や関係性を育むこと。

発信でも、彼らの「できなさ」ではなく「これから」や「可能性」に光をあてます。

誰も悪者にしない

若者が抱える課題の背景には、個人ではどうにもならない社会的な構造や環境があります。若者自身や親、家庭を責めるような発信はせず、子育てや支え合いを家庭だけに背負わせない社会のあり方を伝えていきます。

多様な声に耳を澄ます

目に見える声だけでなく、まだ言葉になっていない思いや沈黙にも、想像力を持って耳を傾けます。

「発信しやすい声」や「聞きたい声」だけでなく、さまざまな立場・背景の声を受けとめることで、発信の偏りを防ぎます。

恐れではなく、希望からはじまる発信を

「～しないとダメになる」「～しないと失敗する」といった不安をあおるような表現ではなく、

「～したら、こんなふうに自分らしく生きられるかも」という、希望や選択肢をひらくような発信を大切にしています。

恐れではなく、安心と前向きな力を届けられる広報を目指します。

表現の影響に敏感であること

発信が偏見を助長したり、誤解を生んだりしないように。

伝わりやすさを優先して本来の意味を削ったり、センセーショナルな言葉で関心を引いたり、悲惨さや過酷さを強調するのではなく、背景の複雑さやひだも大切に、丁寧に届けていきます。

誠実で、正直であること

活動や想いを伝えるとき、必要以上に飾ったり、過剰に見せたりしません。

関わるすべての人に対して誠実であり続けることを何より大切に、事実にもとづいた透明性のある発信を心がけます。

喜びをもって関わる

私たちは「支援する・される」という一方通行の関係ではなく、「ともに生きる仲間」として若者たちと関わっています。

そのなかには、苦しさや葛藤だけでなく、出会いや笑い、感動や成長の喜びもたくさんあります。

広報でも、そうした喜びの瞬間を分かち合いながら、ポジティブな循環を広げていきたいと考えています。

助け合いの循環を広げる発信へ

誰かが困っているときに「わたしには関係ない」と思わない社会をつくりたい。

支える人も、支えられる人も、固定されたものではなく、ゆるやかに行き来しながら、助け合いの循環が育まれるように。

広報もまたその一端を担うものとして、日々の発信を積み重ねていきます。